

ふんわり人。

社会福祉法人朝日会
障害者支援施設 愛の里

事務主任 森 重隆さん

支援部寮長(介護福祉士) 大野 えみ子さん

生活支援員 枝 瑞季さん



愛の里は、社会福祉法人朝日会が笠間市で運営する障害者支援施設です。ここでは、主に知的障害のある利用者が安心して笑顔で毎日生き生きと生活できるように、一人ひとりに合ったサービスを提供しています。森さんは大学卒業後福祉の仕事に就いて19年目、同施設に勤務し12年目、現在は現場ではなく事務主任として求人の仕事を担当し、学生や求職者向けに福祉の仕事や施設の魅力を発信しています。大野さんは短大卒業後に同施設に就職し16年目、生活支援員であり女子寮の寮長、環境班という作業班に属し、利用者とともに野菜や花の栽培をしています。枝さんは就職3年目の生活支援員、大学卒業後に同施設に就職し、利用者の生活の手助けをしながら室内班で内職作業を一緒に行っています。

きっかけは、障害者との出会いから



福祉の仕事に就いたきっかけは、「大学時代にゼミの先輩に誘われて障害のある方のイベントにボランティアとして参加し、障害者の方と楽しい空間を共有し、福祉っていいなと思いついてこの仕事に就きました」と森さん。大野さんは、「保育科の実習で障害者施設に行き、利用者さんに関わった時に楽しいと思いました。純粋でフレン

みんなが笑顔になれる場所をめざして。

ドリーな人が多く、障害者福祉に興味を持ち就職しました」とのこと。枝さんは、「大学卒業後に見学に来て、みんな明るく楽しそうだったので、福祉の仕事は全く知りませんでしたが、ここで働きたいと思いました」と話しています。それぞれ障害者との出会いから、福祉の仕事の一步が始まりました。

楽しさを共有しながら、一人ひとりに合った支援を



福祉の仕事のやりがいを感じると森さんは、「これは自分の原点でもあるのですが、利用者さんとイベントなどで楽しい時間を共有できたり、利用者さんが楽しんでくれた時にやりがいを感じます」と言う。大野さんと枝さんも、「環境班や室内班の活動を通して時間を共有したり、イベントを一緒に楽しんでいる時にやりがいを感じる」と話していました。

仕事の大変さについて大野さんは、「利用者さん一人ひとり個性と特性が違うので、その人に合った支援・介助の仕方が求められます。今日は良くて明日は違うということがあり、支援に正解はないので、毎日模索しながら取り組んでいます。どうしたら生活しやすいかを考えていくことは大変ですが、悩んだ時には先輩に相談しながら乗り切っています」とのこと。

一緒につくることができるのが福祉の仕事の魅力



福祉の仕事の魅力は、「障害者福祉は、介護ばかりではなく一緒に作業をしたり、製品や作品をつくり上げ、発信していくクリエイティブな部分が魅力です。当施設は開設から42年目になり、半分ぐらいの利用者さんは開設当初から入居されています。今までの人生を振り返り、

これからの人生をどうしていくか、ライフプランを考えながら対応していくことも奥深い仕事だと感じます」と森さん。枝さんは、「学ぶことが多いのが福祉の仕事の魅力です。私はどちらかというと人見知りなのですが、利用者さんもスタッフもみんな明るく接してくれて、人との関わり方を学べました」と話していました。

まずは、福祉の仕事への一步を踏み出してほしい。

福祉の仕事を目指す人へのメッセージは、「人と関わることが好きな人が向いていると思いますが、とりあえず一步を踏み込んで、見学したり、ボランティアに参加してみてください。関わりを持てば楽しさや魅力がわかります」と大野さん。枝さんは「福祉の仕事に就くことを迷っている方は、一度見学してみてください。私の場合は、利用者さんが明るく元気いっぱいだったことが、就職の決め手になりました」。森さんは、「知的障害者施設は、いろいろな経験が生かせることが強みです。当施設は笠間焼で有名な笠間市にあるということもあり、以前、陶芸家の方が支援員として働いて利用者さんの芸術面を伸ばしてくれました。きのこの販売は、営業経験のあるスタッフが活躍しています。福祉以外のスキルが役立つ仕事なので、新しいことにチャレンジしたい人にも向いています。なかなか障害者と触れ合う機会はないと思いますが、まずは一度、見学してみてください」と話していました。一人ひとりによりそった支援をめざし、共に楽しい時間を重ね成長を続ける3人のきりり人でした。

